

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養うこと。
- ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・基礎的な学力の定着を図るための時間の確保をする。
- ・活用場面を国語科以外でも設定し、基礎基本の定着を図る。
- ・スキルタイムや家庭学習において、学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・自分が伝えたいことや思ったことを、短い文章で書けるよう学習感想を授業の終わりに書かせる。
- ・「はじめ」「中」「終わり」で構成を考えて、作文を書かせる。
- ・2年生の新出漢字の使い方を正しく確実に覚えさせる。
- ・対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①伝えたいことや思ったことを書く活動を行う。

②尋ねたり応答したりして、少人数で話し合う活動を行う。

＜検証方法＞

①毎回の授業の終わりに学習感想を書き、自分の考えを友達と伝え合う活動を取り入れる。また、週末の宿題として一日1ページ分の日記を書かせ、各話題を自分で決めて、自分の考えを書き表す習慣を身に付ける。

②ペア、または3人までの少人数グループを形成し、毎回の授業に対話活動を取り入れる。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

・授業の最後に毎回学習感想を書いたり、発言させたりしたことで、伝えたいことや思ったことを書く力が伸びた。

＜課題＞

・学習感想を書く時間を取り入れることで、その他の活動時間が少なくなる。
・書く内容が毎回同じになる児童がいた。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・3人以上の対話は、時間の中で話せない児童が出てくる場合があるため、低学年のうちはペアでの対話が良い。

・児童の実態によって、「書く」時間を多くとったり、配分を変えたりして、児童に負担なく学習計画を立てる。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・2年生に配当された、進出漢字を正確に覚え、日常的に文章中に使用できる児童。
- ・句読点や鍵括弧を、文章中で正しく使い、読み手に伝わる文章を書ける児童。
- ・自分が感じたり、思ったりしたことを、相手に分かりやすく話すことができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・身の回りの物を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わろうとする態度を育てる。
- ・算数の学習問題から見出した算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決する力をつける。
- ・問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝える力を伸ばす。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

○言語の視覚化

- ・合併、増加、求残、求差の言語を視覚化し、文章問題において立式の根拠をもてるようにする。
- ・児童の習熟の度合に応じて演習量・難易度を選択できるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・課題把握の場面で、解決方法の見通しがもてるよう、毎回の導入場面で既習事項を振り返る。
- ・自力解決の場面で、自分の考えをノートに書く際に、「図」「式」「言葉」を活用し、説明できるようなノート指導を行う。
- ・対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①自分の考えを図で書き表せるように、身の回りにある具体物や半具体物を操作する活動を多く取り入れる。
- ②考え方について、尋ねたり応答したりして、少人数で話し合う活動を行う。

＜検証方法＞

- ①1時間の授業の中で、身の回りにある具体物や半具体物を操作する活動時間を15分～20分確保する。
- ②ペアや3人グループなどの少人数で話し合ったことを、全体に共有するために、ホワイトボードを使い、質疑応答の時間を10分程度確保する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・身の回りにある具体物や半具体物を使った活動を取り入れたことで、理解が深まる児童が増えた。
- ・自力解決の後、ペアやグループで考えを共有するために話し合いを取り入れたところ、内容の理解が深まった。

＜課題＞

- ・学力差が大きく、具体物や半具体物の操作が必要な児童が多い。習熟度に応じた指導が必要である。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・ペアやグループ活動での対話の充実を図るために、意図的な席の配置が必要である。
- ・たし算の繰り上がり、ひき算の繰り下がりでは、繰り上がりの「1」や、繰り下がりの「斜め線」や借りた「10」を書き加えることを行う。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・繰り上がりの筆算の仕方、繰り下がりの筆算の仕方を確実にできる児童。
- ・立式の意味について理解し、場面を図や絵、具体物などを使い多用に表すことができる児童。
- ・上記の事について、文中の言葉を使ったり、具体物を操作したりして分かりやすく説明できる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活の安全・安心に対する配慮から、自然事象に接する機会が乏しくなっているため、生命の尊さや自然事象について体験できるようにすること。 ・児童は地域の中で様々な人や場所、ものに関わりながら生活している。しかし、子供たちに東町・西町・清瀬・奥村地区について知っているか尋ねると遊ぶ場所以外の場所が出てこなかった。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>○様々な活動や体験を取り入れた授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村のことを調べたり人々と交流したりする活動、野菜を育てる活動、生き物を探し観察したり、調べたりする活動、身近な材料を使って動くおもちゃを作る活動、これまでの自分の成長を振り返る活動を通して、日常生活や学習上での自立を目指す。 ・動物や植物との関わりを増やすことで自然への興味関心を向上させる。 ・朝の会や帰りの会に動物や学級菜園の情報交換を行うなど日常活動に位置付けていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然事象について直接体験を重視した学習活動を展開し、生活科での学びを実生活に生かせるようにする。 ・自分たちの町には安心安全につながるものがたくさんあり、安心して生活できるという安心感や親しみ、愛着の気持ちがもてるような単元計画を作成する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①外部と連携して地域に根差した教材を用意する。</p> <p>②町探検へ出かける際、どのようなところを見て回ればいいのかについて考えさせたり、施設で働いている人にインタビューをさせたりして自分たちの住む町の良さについて気付かせる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①地域の生物について調査したことを発表する。</p> <p>②すべての経路を探検後、写真と感想を書いた付箋の仲間分けを行う。それぞれがどのような役割をもっているのか、児童が仲間分けできるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の生物を調査したことで、生物に親しみを持ち、小笠原の自然に対して興味をもつことができた。発表を通して、生物について詳しくなった。 ・町探検後、グループでのまとめや発表を行ったことで、地域の施設や人々の思いに対して興味を広げることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、活動時間や班員人数が制限されることがあり、もっと地域の人々と関わり、多くを学ばせたかった。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、観察カードのほかにも、グループで新聞を作らせて、発表させる力をつける。
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と積極的に関わりをもとうとする児童。 ・地域に住む動植物に関りをもとうとする児童。 	

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。
- ・歌唱や器楽（特に鍵盤ハーモニカ）の技能の個人差が大きく、支援を要する児童については特に丁寧に個別指導を行う必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし
- (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等
 - ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。
 - ・曲を聴いたり絵譜を見たりして曲想の感じ取りを深めたり、様々な表現方法を体験したりして、曲想を感じ取った表現ができるようにしている。
 - ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ① 曲を聴いたり絵譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。
- ② 短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

〈検証方法〉

- ① 発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲想の感じ取りを深めることができたか確かめる。
- ② 演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・発言を促したりワークシートに記入したりすることで、曲想の感じ取りに深まりが見られた。
- ・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、表現活動への意欲が高まった。

〈課題〉

- ・感じ取ったことを表現に生かせるようにする。
- ・技能を定着させ、次の学習に生かせるようにする。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択を工夫したり個別指導を重点的に行ったりする必要がある。
- ・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出できる児童が比較的多いが、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりする等の手だてが必要な児童もいる点に留意する。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に進んで取り組むことができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解するとともに、表し方をさらに工夫する力を高める。
- ・一つの発想方法や考え方だけでなく、様々な方法があることに気付き、意欲的に楽しんで試せるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。
- ・活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。
- ② 体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

<検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品観察。全児童がある程度新たな表現方法の面白さなどに気付けるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・様々な材料を使った作品づくりなどを行い、表現方法の幅を広げることができた。

<課題>

- ・新たな自分の側面を発見したり、発想を広げたりする力をさらに伸ばしたい。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。
- ・導入や材料なども工夫し、児童が意欲的に取り組みながら発想を広げられるようにする。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

活動を楽しみながら、自分なりの発想をしたり、試行錯誤したりできる児童

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・各種の運動遊びの楽しさに触れ、基本的な動きを身に付けるようにする。
- ・各種の運動遊びがもっと楽しく充実するように、行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

○日常的に走る運動を取り入れた授業の推進

- ・準備運動などで走る運動を意図的に取り入れていく。
- ・自分の思った通りに体を動かし走力を高められるよう様々な動きを取り入れた運動場面を設定する。
- ・友達の動きを観察する場面や、模範を示して技術的な指導を行う場面の設定をする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・基本的な動きの手本やポイントを動画で確認したり、自分の動きをタブレット端末で友達と撮影し合ったり、ICTを用いて自己確認できる授業展開を計画する。
- ・単元ごとに、同じめあてをもつ同質グループと、違うめあての達成を目指す異質グループを作り、児童同士が教え合い学び合えるスタイルを作る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①各自の能力に応じた、段階別の場の工夫。
- ②自分たちの考えを試せる十分な活動時間の確保。

〈検証方法〉

- ①児童の発達の段階に応じた各種の運動を通して、できる楽しさに触れることができるようにする。
- ②ワークシートに指導計画を取り入れ、児童が活動内容を把握し、時間が十分に確保できるよう自分たちで行動できるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・児童の発達の段階に応じた各種の運動を通して、できる楽しさに触れることができた。

〈課題〉

- ・活動時間を十分に確保するために、ワークシートでの振り返りは難しく。発言だけにとどめることが多かった。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・体育で使用する各教具の準備の仕方をしっかりと教え、安全に準備を行えるようにする。
- ・自分の動きを友達に尋ねて確かめたり、友達の良いところを真似したりして、自分の動きを高める力を伸ばす。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・自分の思った通りに体を動かして、運動を楽しむことができる児童。
- ・安全に気をつけながら準備から片付けまで、友達と協力できる児童。
- ・自分で創意工夫をしながら、自分の動きを高められる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元によっては、児童の発達段階や経験不足から、登場人物の心情に寄り添うことが難しい場合がある。 ・ 自分の経験や考え方、感じ方で物事を捉えがちなときもあるため、物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記載なし <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の教材と児童たちの経験をすり合わせる活動を導入時に取り入れて、問題を自分事のようにとらえられるようにする。 ・ 役割演技などの活動を取り入れ、登場人物の心情に寄り添えるようにする。 ・ 他者とテーマについて対話することによって、物事を一面的ではなく多面的に考える、また、一つの視点からではなく様々な角度から多面的に考える。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>① 掲示物や ICT 機器を活用して、場面が想像できるようにする。</p> <p>② 登場人物の役割演技や動作活動を取り入れる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>① 掲示物や ICT 機器を活用して、そのときの場면을想像できているか確かめる。</p> <p>② ペアでの役割演技や動作活動を行い、登場人物の心情が考えやすくなっているか確かめる。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>① 掲示物や ICT 機器を活用して、場面が想像できるようにする。</p> <p>② 登場人物の役割演技や動作活動を取り入れる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 掲示物や ICT 機器を活用して、そのときの場면을想像できているか確かめる。</p> <p>② ペアでの役割演技や動作活動を行い、登場人物の心情が考えやすくなっているか確かめる。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>① 掲示物や ICT 機器を活用して、場面が想像できるようにする。</p> <p>② 登場人物の役割演技や動作活動を取り入れる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 掲示物や ICT 機器を活用して、そのときの場면을想像できているか確かめる。</p> <p>② ペアでの役割演技や動作活動を行い、登場人物の心情が考えやすくなっているか確かめる。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物や ICT 機器を活用することで、そのときの場면을想像できた。 ・ ペアでの役割演技や動作活動を行い、登場人物の心情が考えやすくなった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の内容と児童の実態が合わないときもあり、考えが深まらないときがあった。 ・ 授業後に生活と結びつける児童は少なかったため、今後自分はどう行動していくべきかまで、毎回考えさせていく。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習後、生活の場面で活かせること児童が少なかったため、授業が経過してから改めてテーマについてフィードバックして、習ったことを日常に活かすよう意識して行動させたい。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだことを意識して、生活できる児童。 			